

岡山県感染症週報 2017年 第2週 (1月9日～1月15日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です
岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2017年 第2週 (1/9～1/15) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第52週 5類感染症 梅毒 1名 (50代 男)
- 第1週 4類感染症 レジオネラ症 1名 (60代 男)
- 第2週 2類感染症 結核 9名 (10代 男 1名、20代 男 6名、80代 男 1名、90代 女 1名)
- 5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名 (80代 女)
- 梅毒 1名 (30代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 1,441 名 (定点あたり 10.68 → 17.15 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 368 名 (定点あたり 7.31 → 6.81 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 97 施設でありました。(1月16日～19日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 1,441 名 (定点あたり 10.68 → 17.15 人) の報告があり、第49週 (12/5～12/11) 以降、患者の増加が続いています。全ての地域で患者が増加しており、特に倉敷市 (23.31 → 31.25 人) では警報発令基準 (30.00 人) を超え、発生レベル 3 となっています。また、前週から発生レベル 2 が継続している備中地域 (22.75 人)、美作地域 (12.50 人) に加え、新たに備前地域 (15.07 人)、備北地域 (13.33 人) でも、発生レベル 2 となりました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ「[2016/2017年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!](#)」をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 368 名 (定点あたり 7.31 → 6.81 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域 (14.50 人)、美作地域 (8.33 人)、倉敷市 (7.36 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ「[2016/2017年 感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		★★
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：大幅な減少
：減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★★：非常に多い

インフルエンザ週報 2017年 第2週 (1月9日～1月15日)

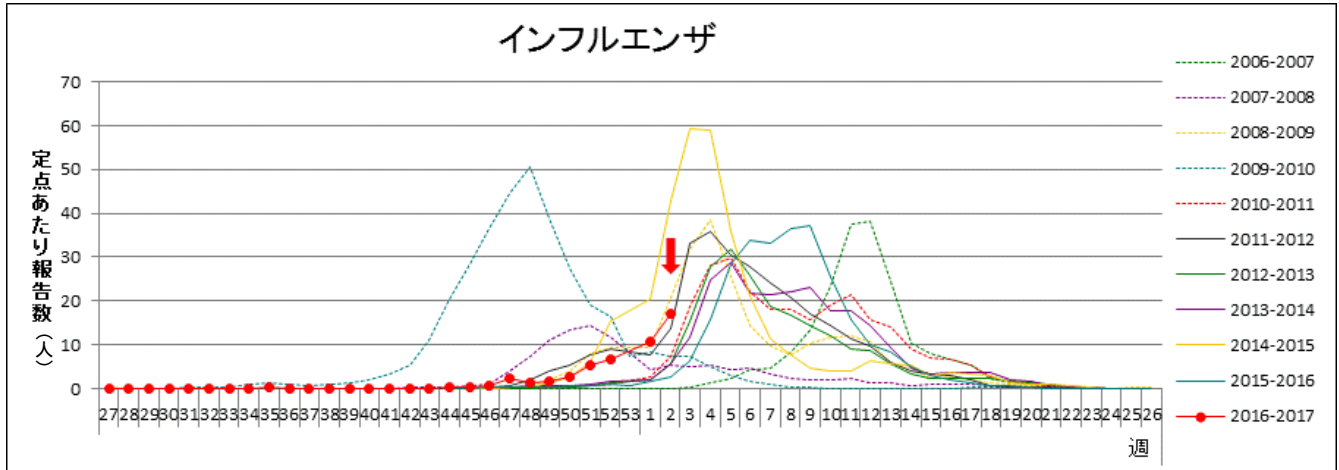
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で1,441名(定点あたり17.15人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者12名の報告がありました。

【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が97施設でありました。(1月16日～19日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で1,441名(定点あたり10.68 → 17.15人)の報告があり、第49週(12/5～12/11)以降、患者の増加がつづいています。岡山県は、12月1日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。全ての地域で患者が増加しており、特に倉敷市(23.31 → 31.25人)では警報発令基準(30.00人)を超え、発生レベル3となっています。また、前週から発生レベル2が継続している備中地域(22.75人)、美作地域(12.50人)に加え、新たに備前地域(15.07人)、備北地域(13.33人)でも、発生レベル2となりました。

新学期が始まって以降、第3週(1/16～)には、学校等の臨時休業が多数報告されており、今後の患者増加が懸念されます。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みでは、マスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成28年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

◆インフルエンザは流行期に入っています。 感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- * 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

『咳エチケット』 ～ 咳やくしゃみをするときは ～

1. 周囲の人からなるべく離れてください。
2. 他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。
3. 口と鼻を覆った手は、石鹸で丁寧に洗いましょう。
4. 咳やくしゃみが出ている間は、マスクを着用しましょう。

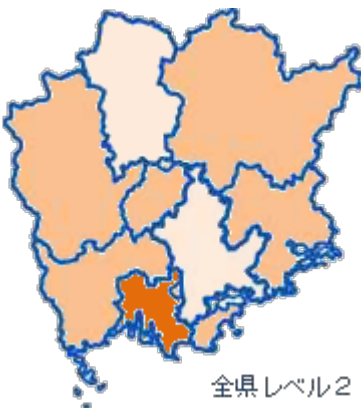
1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,441	▲	備 中	患者数	273	▲
	定点あたり	17.15			定点あたり	22.75	
岡山市	患者数	208	▲	備 北	患者数	80	▲
	定点あたり	9.45			定点あたり	13.33	
倉敷市	患者数	500	▲	真 庭	患者数	29	▲
	定点あたり	31.25			定点あたり	9.67	
備 前	患者数	226	▲	美 作	患者数	125	▲
	定点あたり	15.07			定点あたり	12.50	

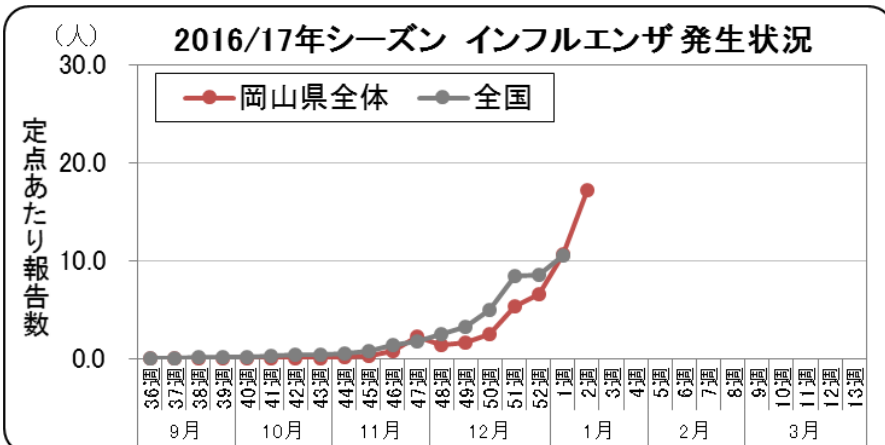
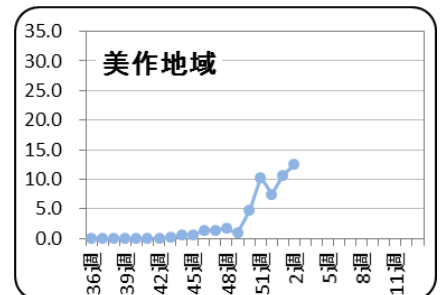
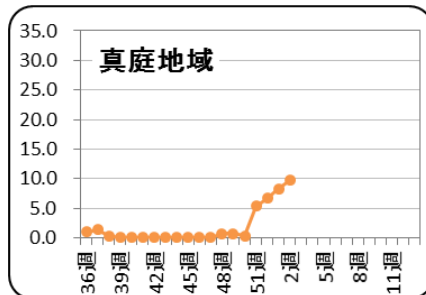
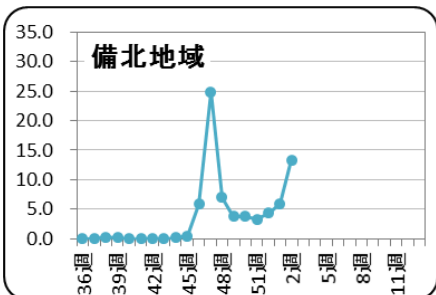
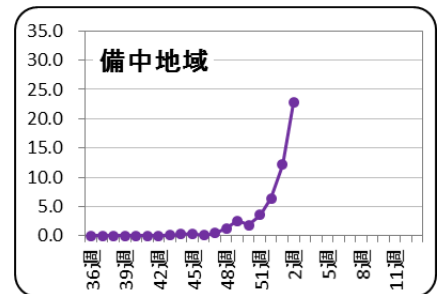
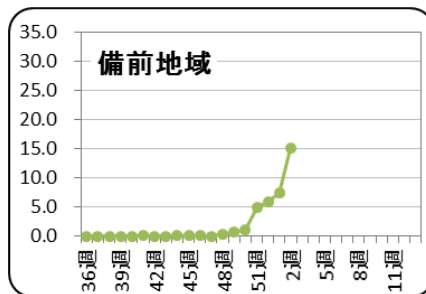
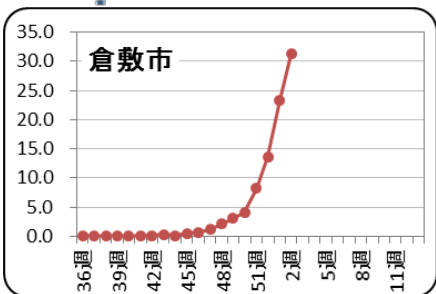
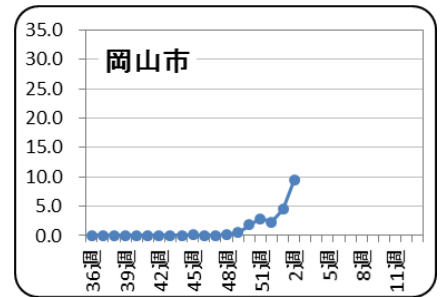
【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 ➡：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

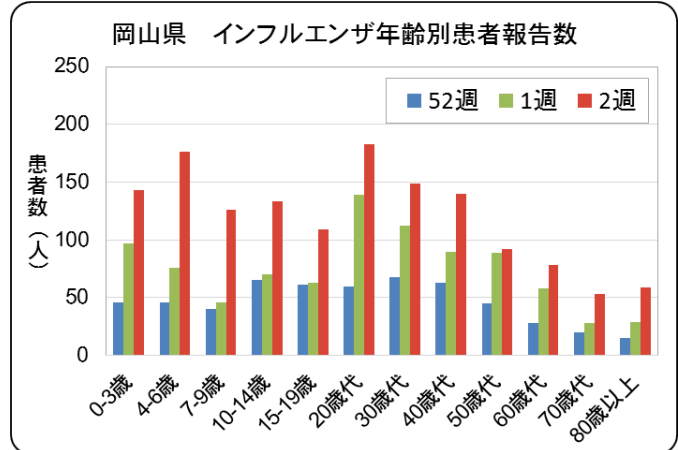
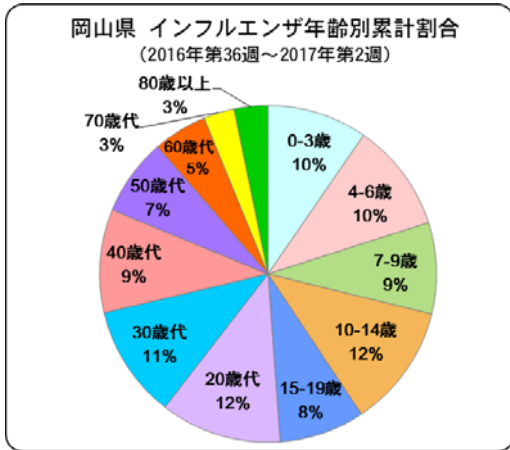


全国集計第1週（1/2～1/8）速報値によると、全国の定点あたり報告数は10.58人となり、前週（8.54人）より増加しました。都道府県別では、岐阜県（19.87人）、秋田県（18.30人）、愛知県（18.25人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、42都府県で前週の報告数よりも増加しました。

[インフルエンザの発生状況について](#)
 （厚生労働省）

2. 年齢別発生状況

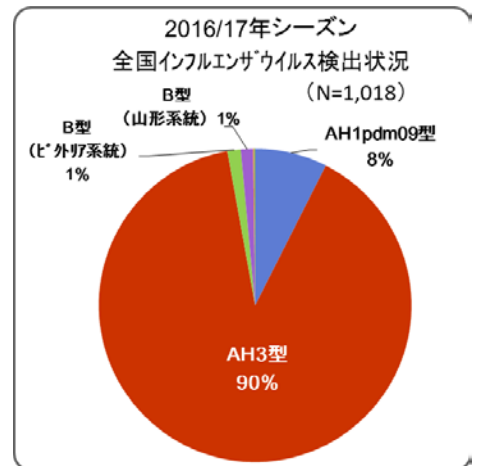
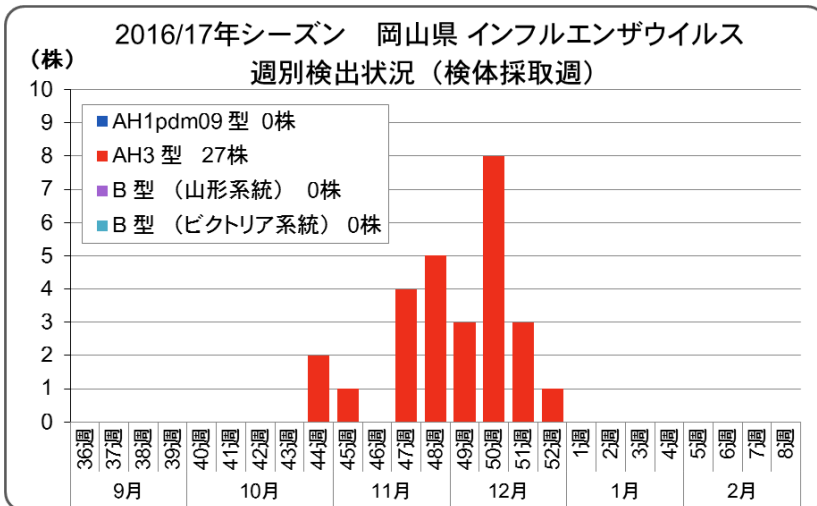
今シーズンの年齢別累計割合は、10-14歳・20歳代 12%、30歳代 11%、0-3歳・4-6歳 10%の順で高くなっています。第2週の患者報告数を見ると、新学期の始まりに伴い、学校などで集団生活をしている年齢層で大きく増加しています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第2週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が27株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 90%、AH1pdm09型 8%、B型 2%〔山形系統 1%・ビクトリア系統 1%〕の順となっています。(2017年1月13日現在)



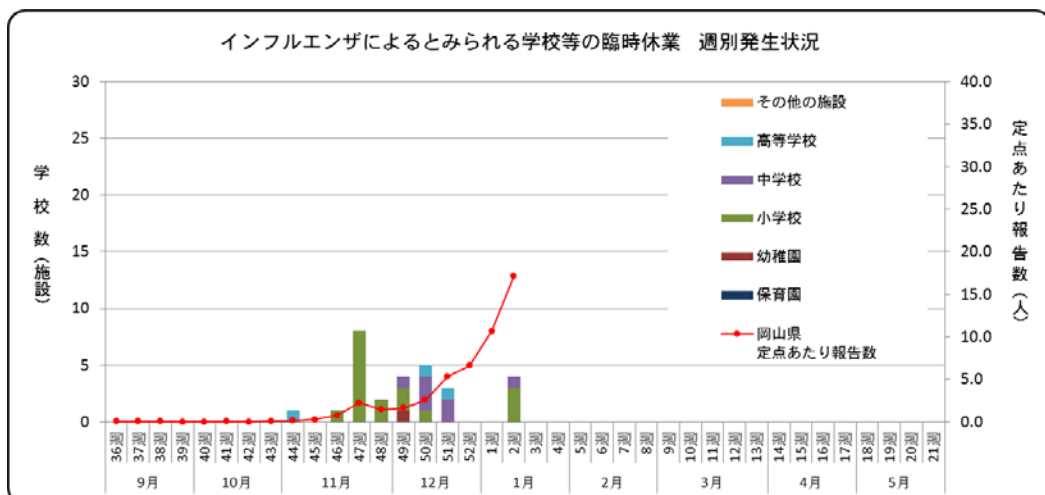
[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が4施設でありました。

【第2週 臨時休業施設数】

▽岡山市 1 ▽倉敷市 1 ▽新見市 1 ▽赤磐市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	59	412	51	307	4	28	0	2	1	12	3	14	H28.11.2
岡山市	14	48	13	46	1	4	—	—	—	—	1	4	H28.12.12
倉敷市	25	54	20	37	1	3	—	—	—	—	1	3	H28.11.29
備前地域	15	47	14	29	1	3	—	—	0	1	1	2	H28.12.12
備中地域	0	11	0	9	0	1	—	—	—	—	0	1	H28.11.2
備北地域	5	138	4	100	1	12	0	2	1	9	0	1	H28.11.21
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	0	114	0	86	0	5	—	—	0	2	0	3	H28.11.16

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第2週：4施設

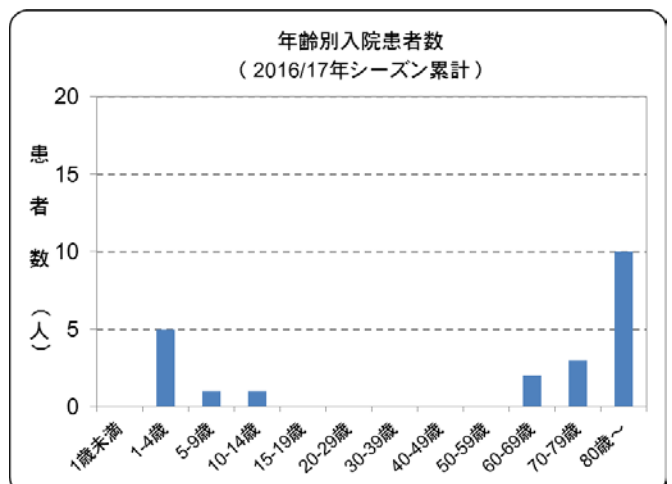
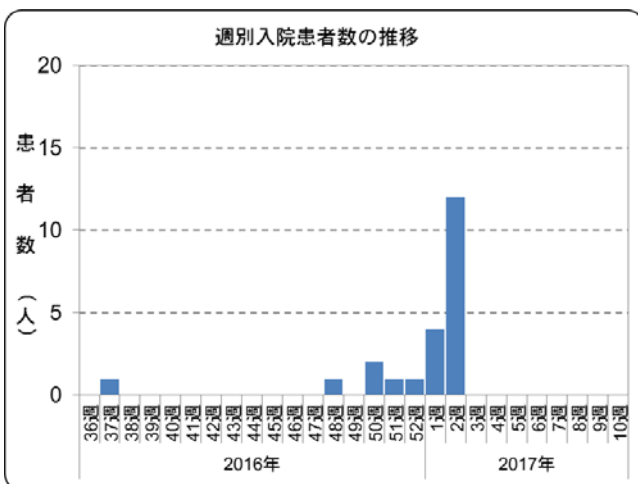
累計：28施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	3	17	1	7	0	3	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、12名（1-4歳 2名、10-14歳 1名、60-69歳 2名、70-79歳 2名、80歳以上 5名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第2週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2		1						2	2	5	12
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*										1			1
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		2		1						1	2	5	11

* 重複あり

【2016年9月5日以降に入院した患者の累計数】

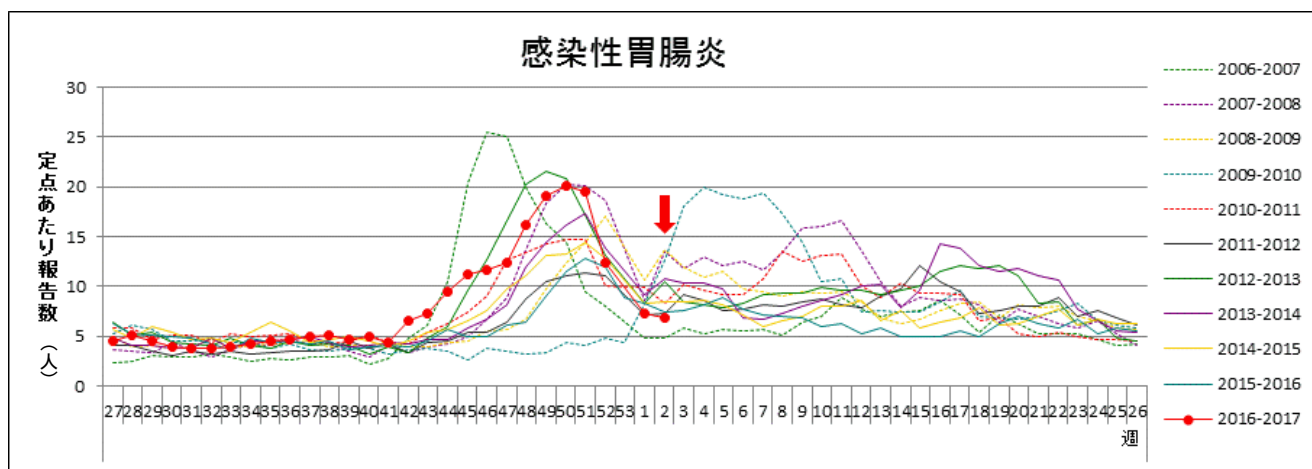
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		5	1	1						2	3	10	22
ICU入室*			1										1
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*			1							1		1	3
頭部MRI検査(予定含)*		1	1										2
脳波検査(予定含)*		1	1										2
いずれにも該当せず		3		1						1	3	9	17

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2017年 第2週 (1月9日～1月15日)

岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で368名(定点あたり7.31 → 6.81人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

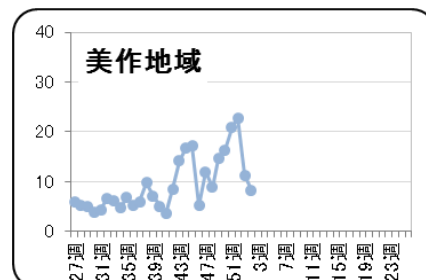
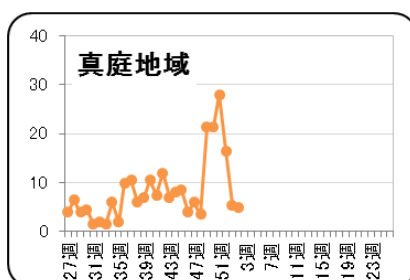
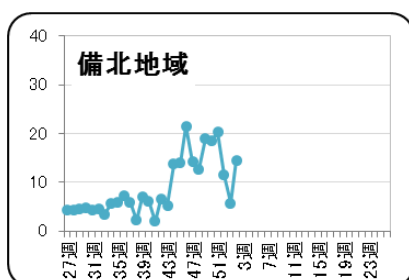
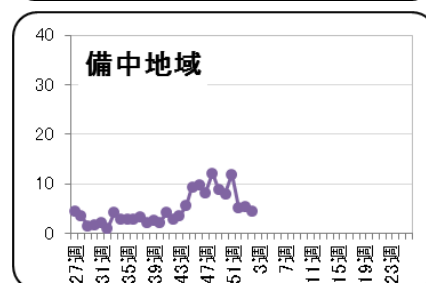
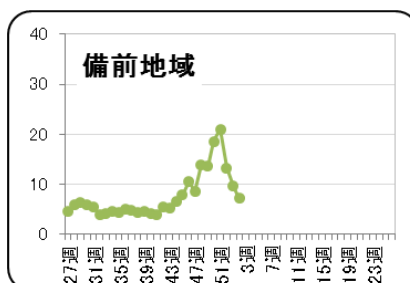
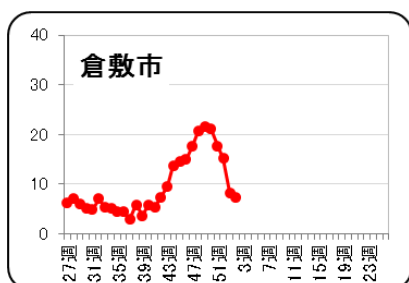
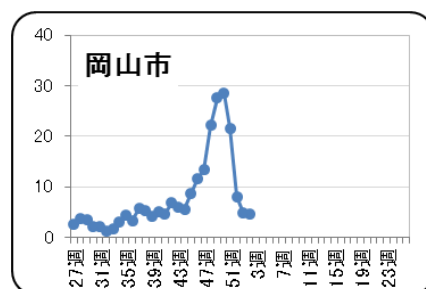
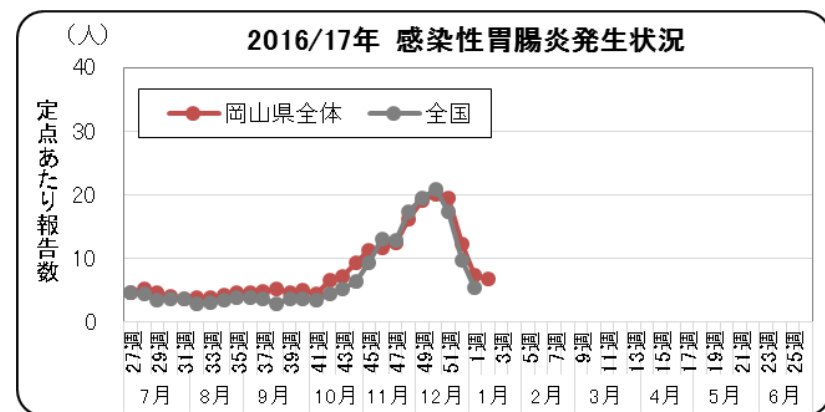


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

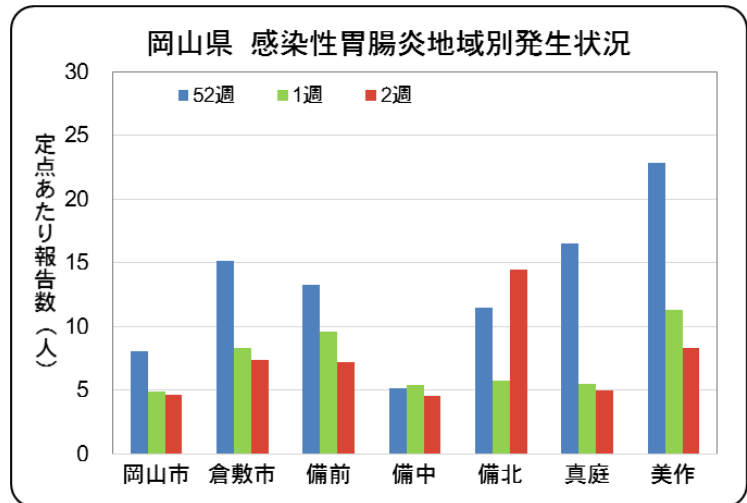
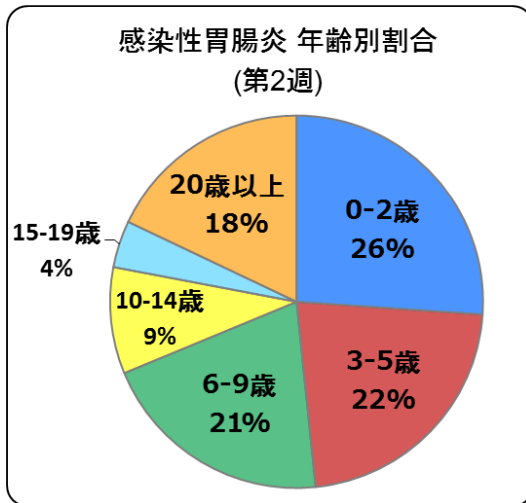
感染性胃腸炎は、県全体で368名(定点あたり7.31 → 6.81人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。12月をピークに報告数は減少し、前週から横ばいとなっていますが、依然として多くの患者が報告されています。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、備北地域（14.50人）、美作地域（8.33人）、倉敷市（7.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者が減少しましたが、備北地域（5.75 → 14.50人）では、大きく増加しています。第2周年齢別割合では、0-2歳 26%、3-5歳 22%、6-9歳 21%の順で高くなっています。



◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か**次亜塩素酸ナトリウム**(※家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2017年 2週(定点把握)

(2017/01/09～2017/01/15)

2017年1月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1441	17.15	208	9.45	500	31.25	226	15.07	273	22.75	80	13.33	29	9.67	125	12.50
RSウイルス感染症	25	0.46	10	0.71	9	0.82	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	18	0.33	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	7	0.50	11	1.00	1	0.10	6	0.86	1	0.25	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	368	6.81	65	4.64	81	7.36	72	7.20	32	4.57	58	14.50	10	5.00	50	8.33
水痘	14	0.26	3	0.21	4	0.36	4	0.40	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	18	0.33	7	0.50	11	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	0.07	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	1	0.50	2	0.33
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	32	0.59	2	0.14	24	2.18	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	9	1.80	-	-	9	9.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 2週(発生レベル設定疾患)

(2017/01/09～2017/01/15)

2017年1月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1441	17.15	208	9.45	500	31.25	226	15.07	273	22.75	80	13.33	29	9.67	125	12.50
咽頭結膜熱	18	0.33	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	7	0.50	11	1.00	1	0.10	6	0.86	1	0.25	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	368	6.81	65	4.64	81	7.36	72	7.20	32	4.57	58	14.50	10	5.00	50	8.33
水痘	14	0.26	3	0.21	4	0.36	4	0.40	-	-	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	18	0.33	7	0.50	11	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	0.07	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	32	0.59	2	0.14	24	2.18	5	0.50	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	-	-	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第2週 2017/01/09～2017/01/15)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1441	3	17	45	36	42	59	62	55	44	37	45	133	109	183	149	140	92	78	53	59

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	25	5	7	8	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	18	-	2	8	2	2	3	-	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	-	-	1	1	7	3	3	1	4	3	5	3	-	-
感染性胃腸炎	368	10	14	40	32	28	28	26	19	15	24	17	34	15	66
水痘	14	-	1	1	2	1	1	3	1	1	2	-	1	-	-
手足口病	18	-	2	8	2	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	4	-	-	1	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	14	1	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	32	-	-	3	3	4	-	8	1	1	4	3	3	-	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

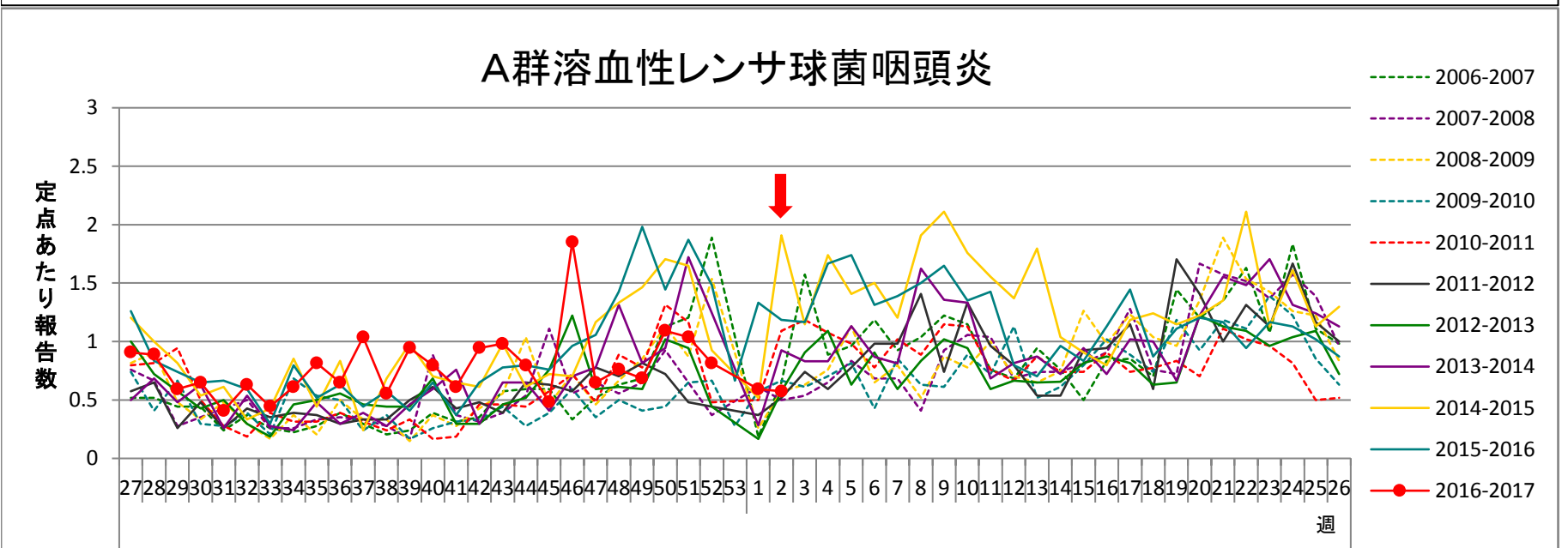
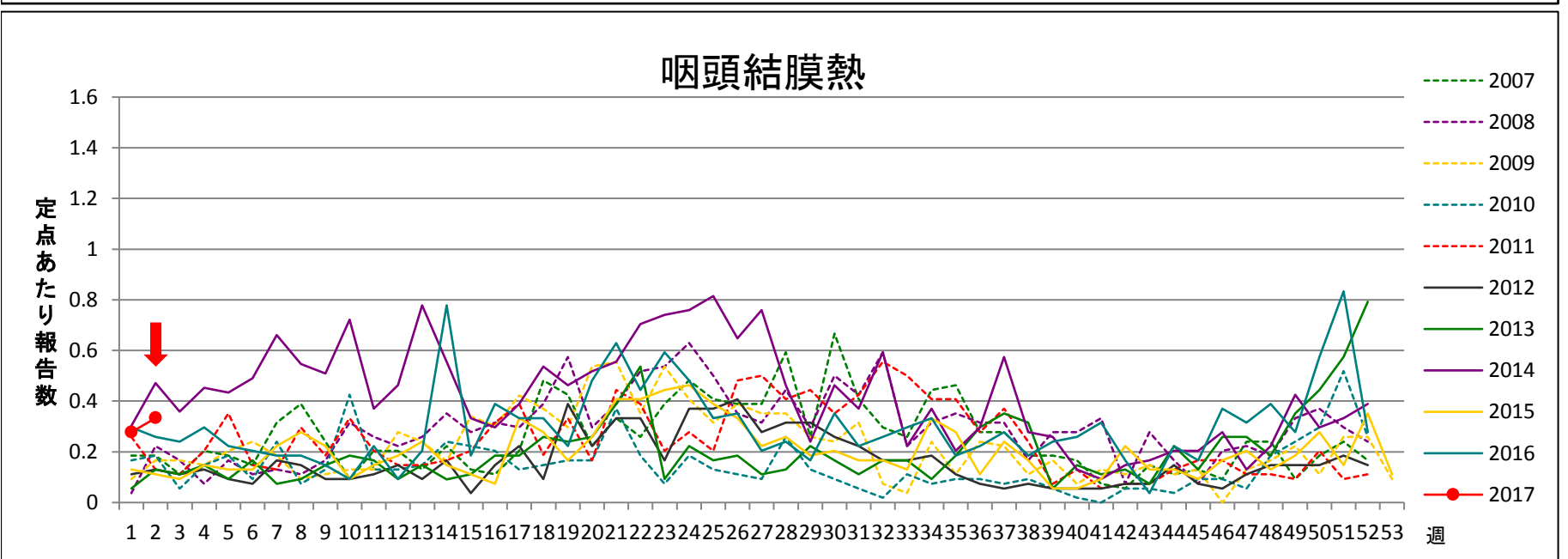
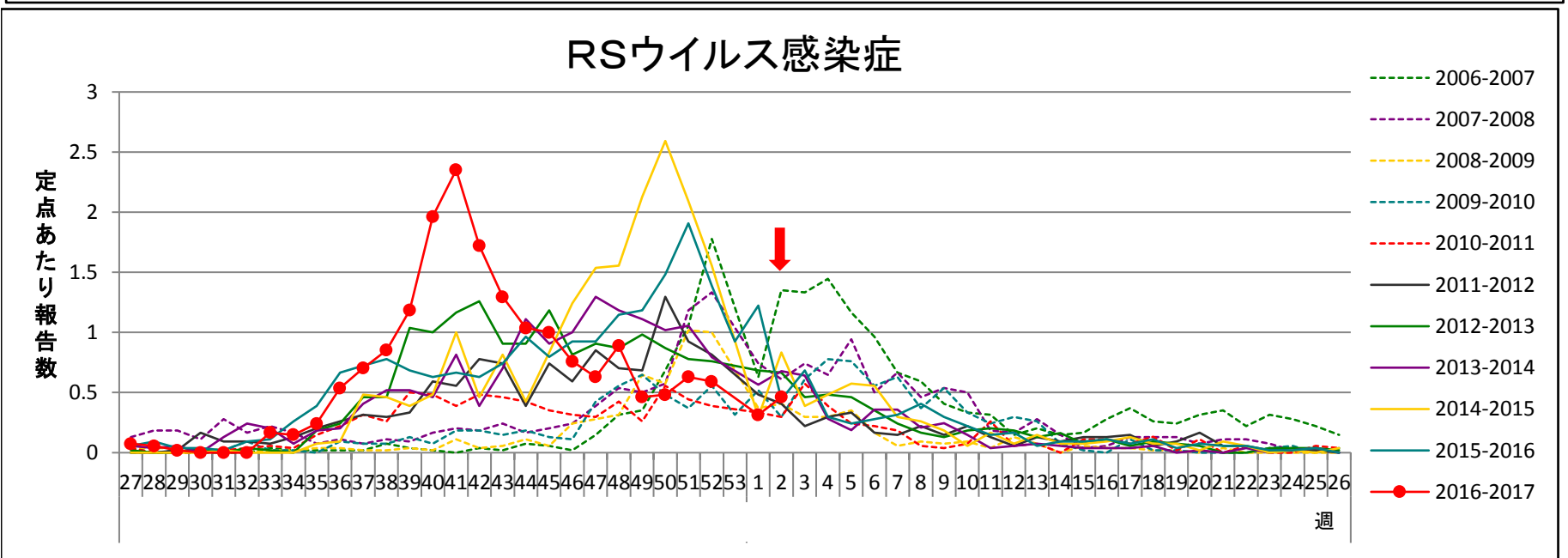
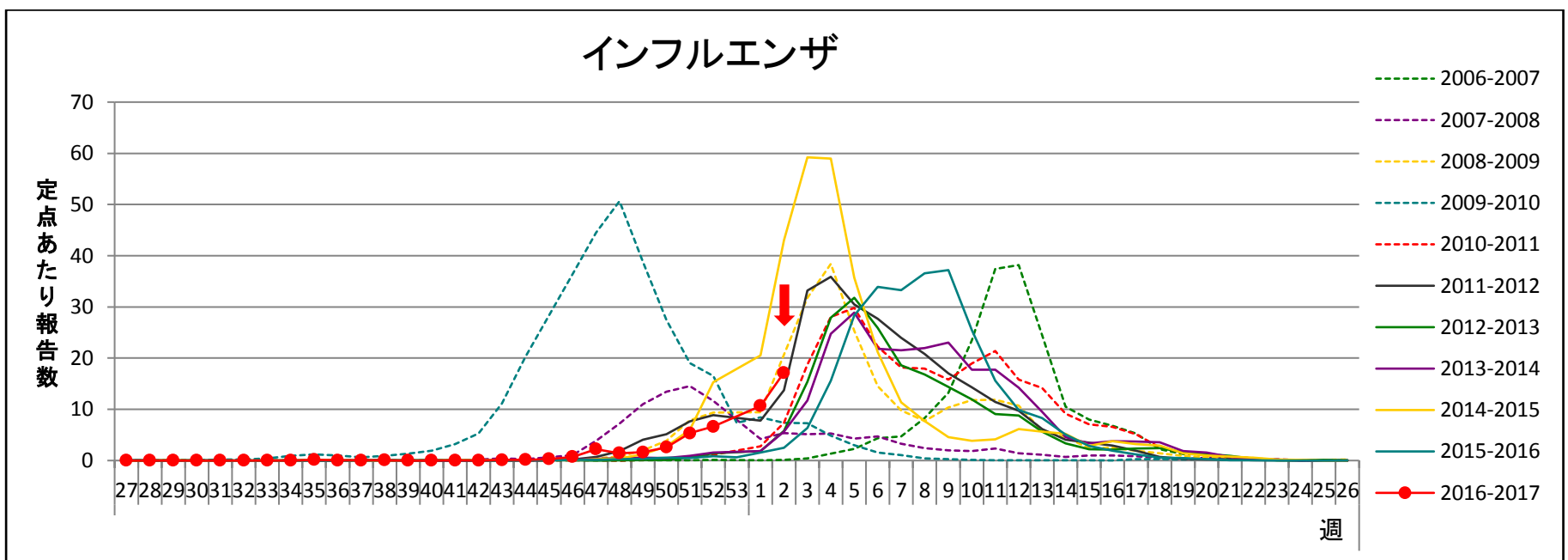
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	9	-	1	1	2	2	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

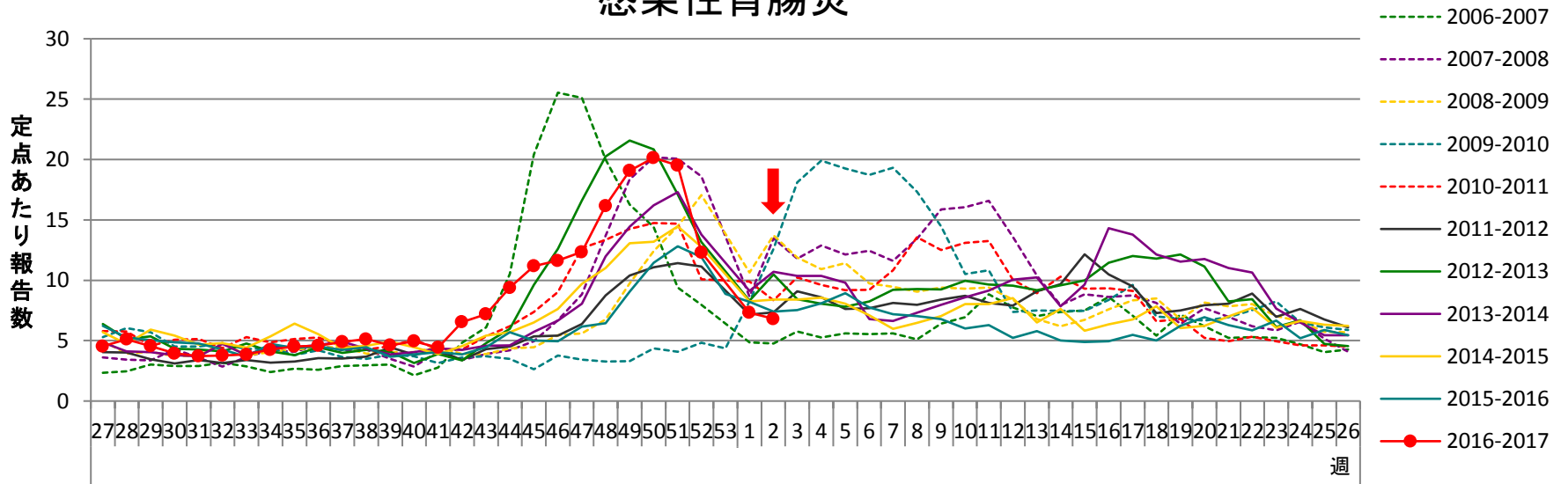
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 2週

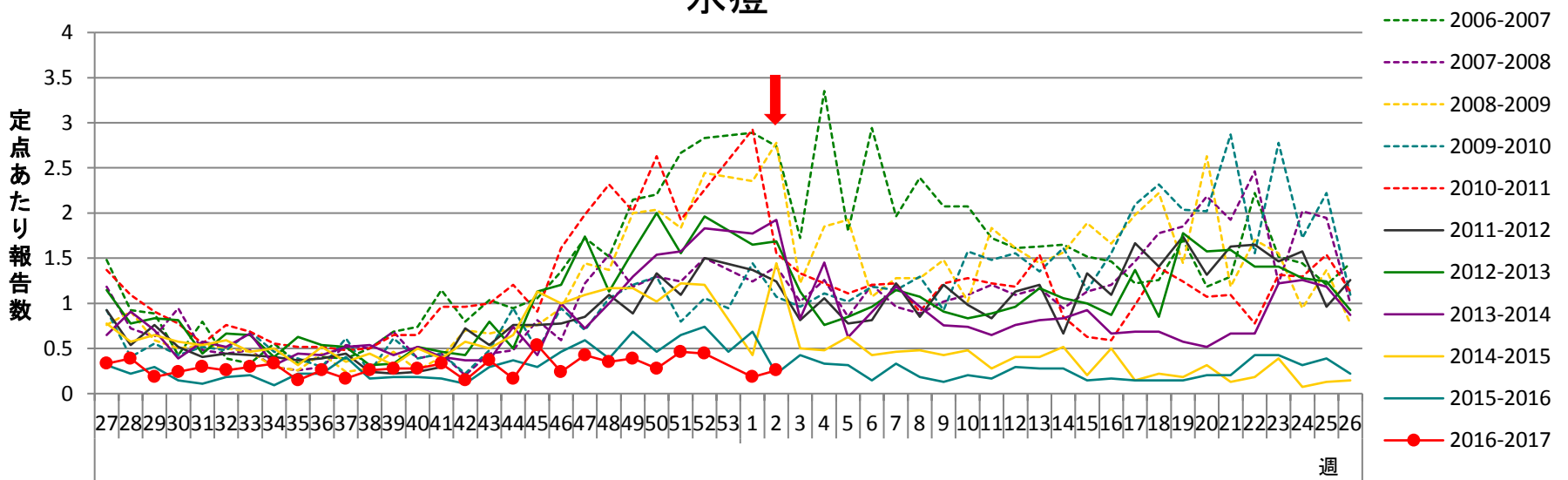
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	9	12	297	ジフテリア	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	65	-
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	3	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	-
	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	-	4	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	2	25	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	-	18	ウイルス性肝炎*3	-	-	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	-	28	-
	急性脳炎*4	-	-	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	8	後天性免疫不全症候群	-	-	12	ジアルジア症	-	-	1	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	32	-
	水痘(入院例に限る。)	-	1	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	1	39	-
	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	3	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-



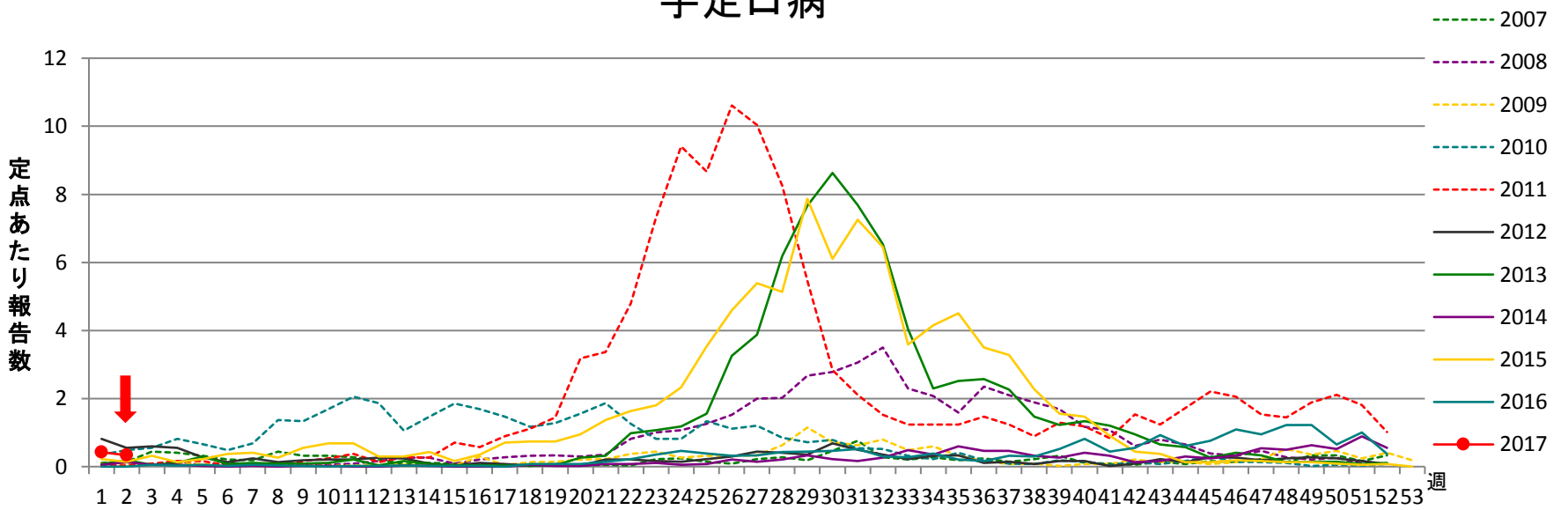
感染性胃腸炎



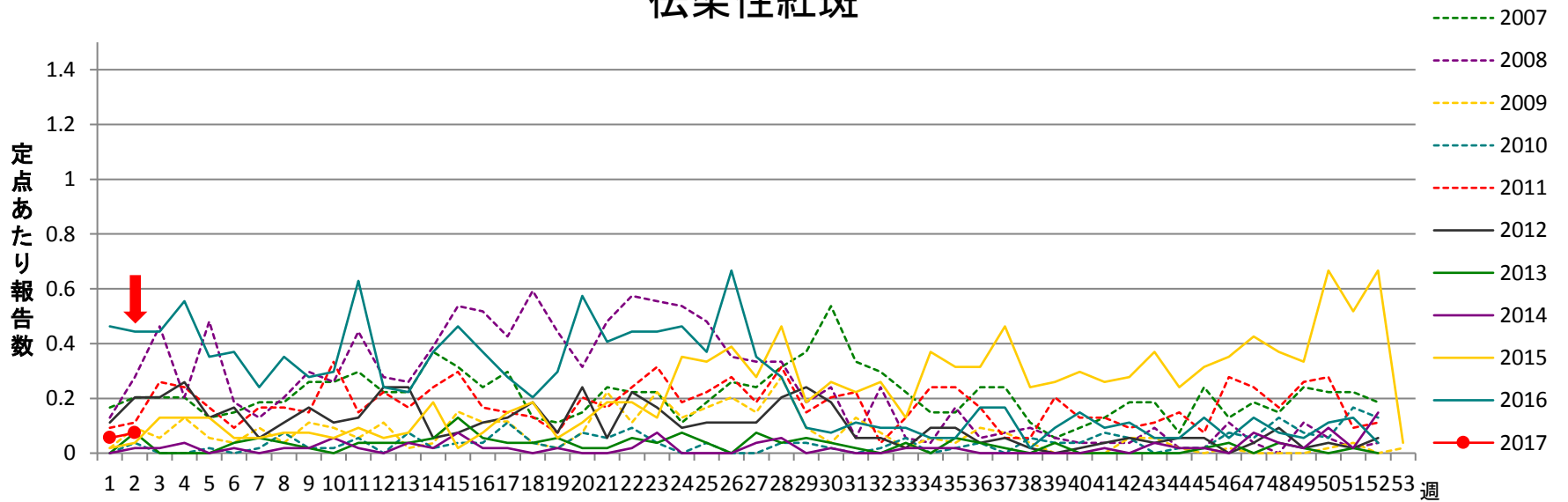
水痘



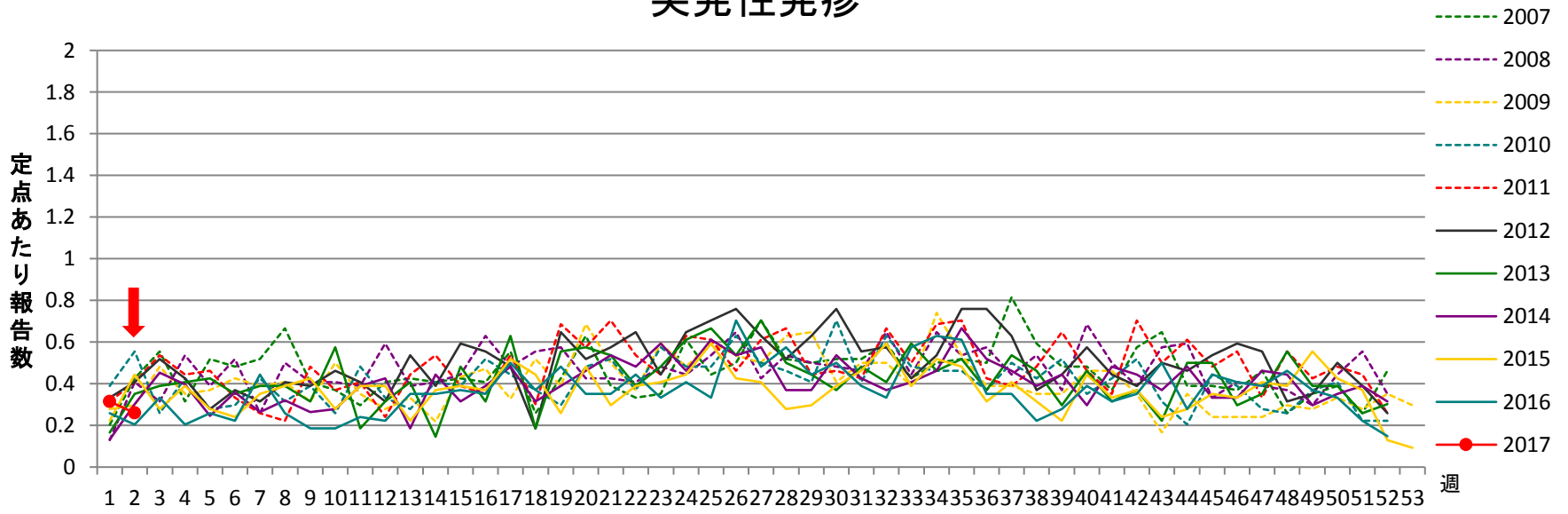
手足口病



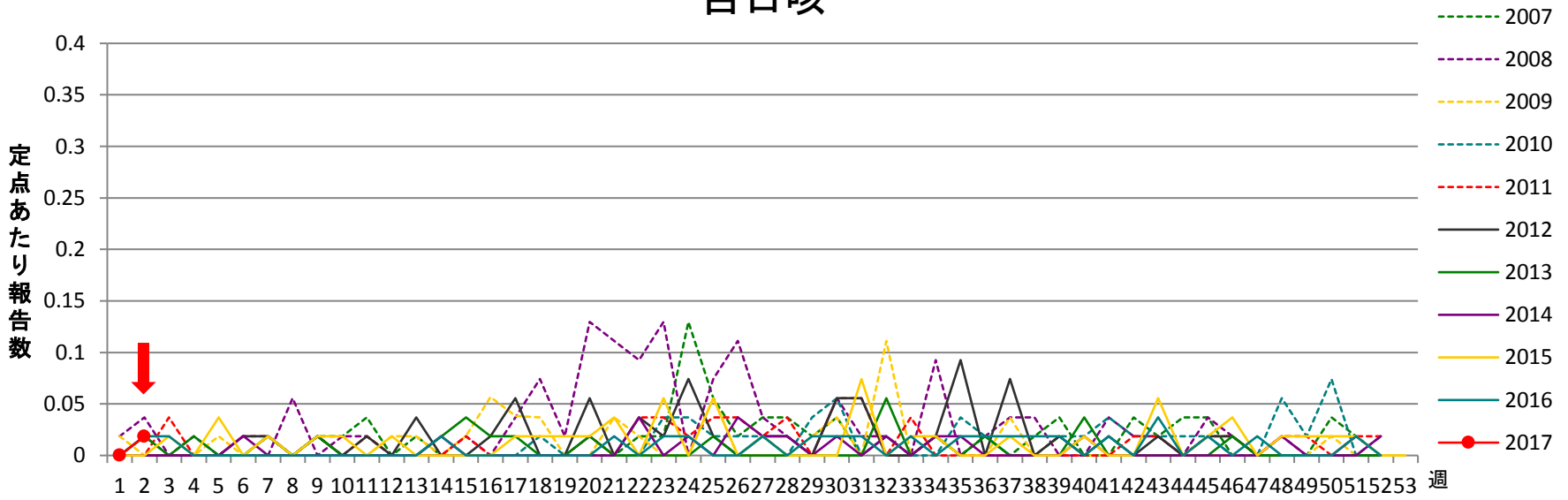
伝染性紅斑



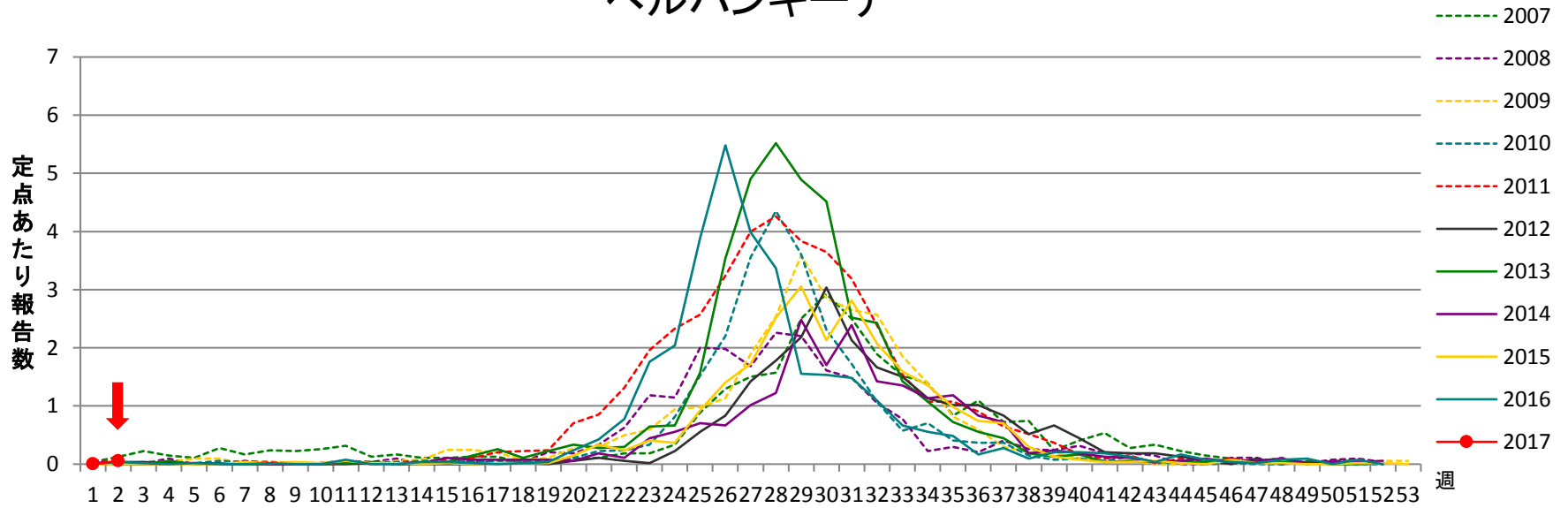
突発性発疹



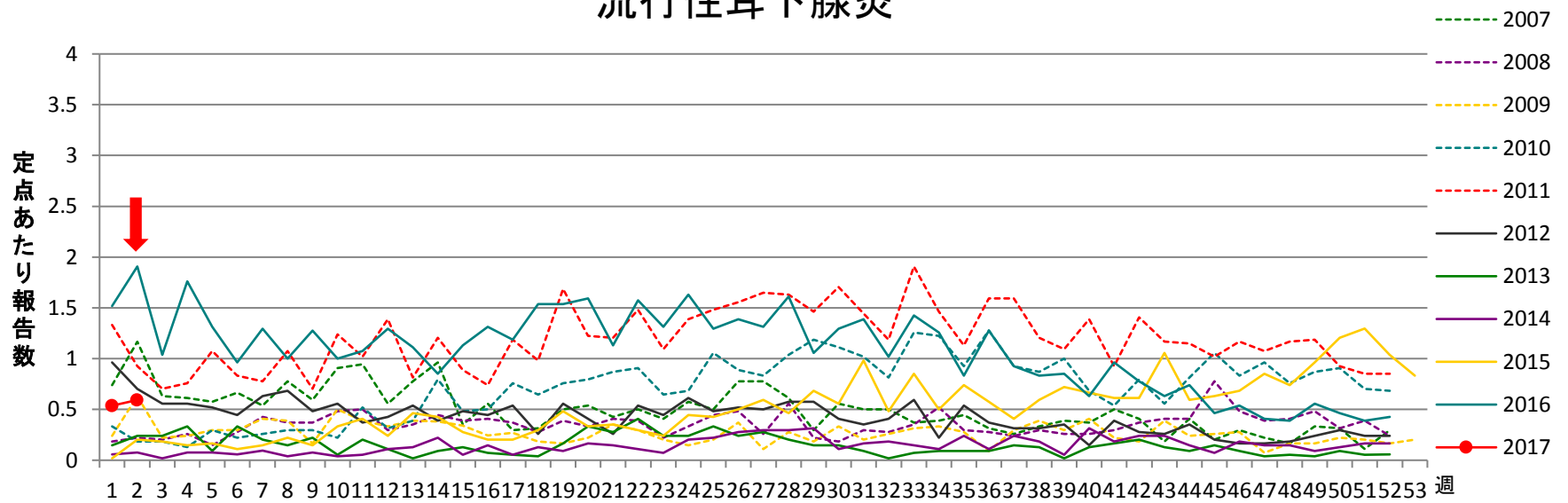
百日咳



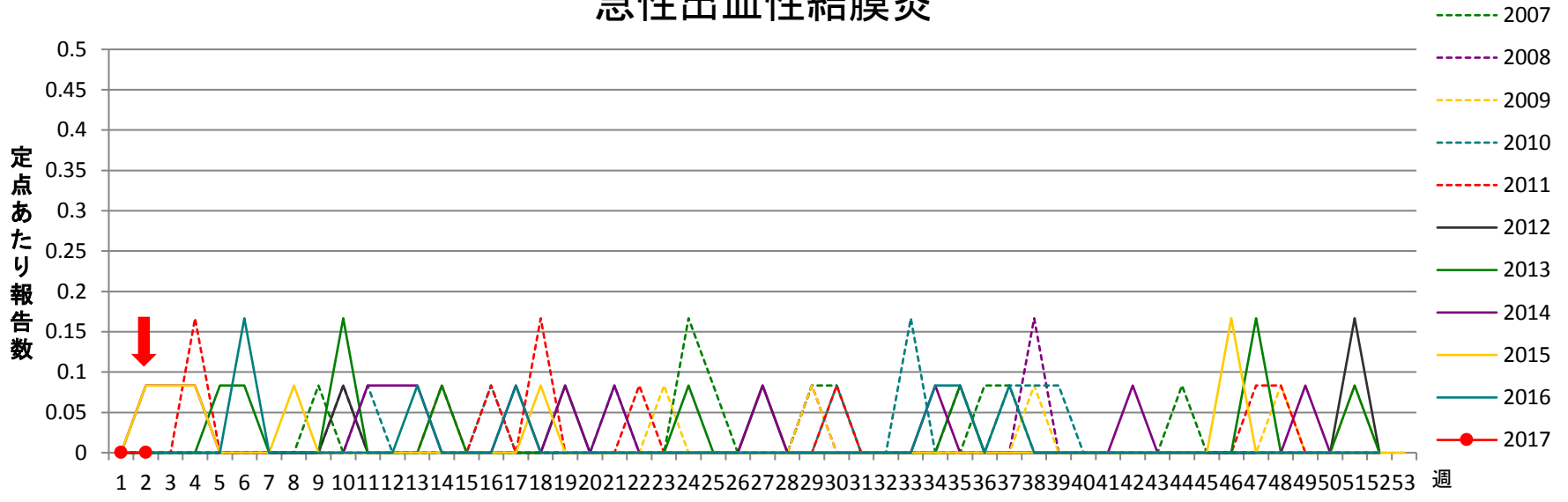
ヘルパンギーナ



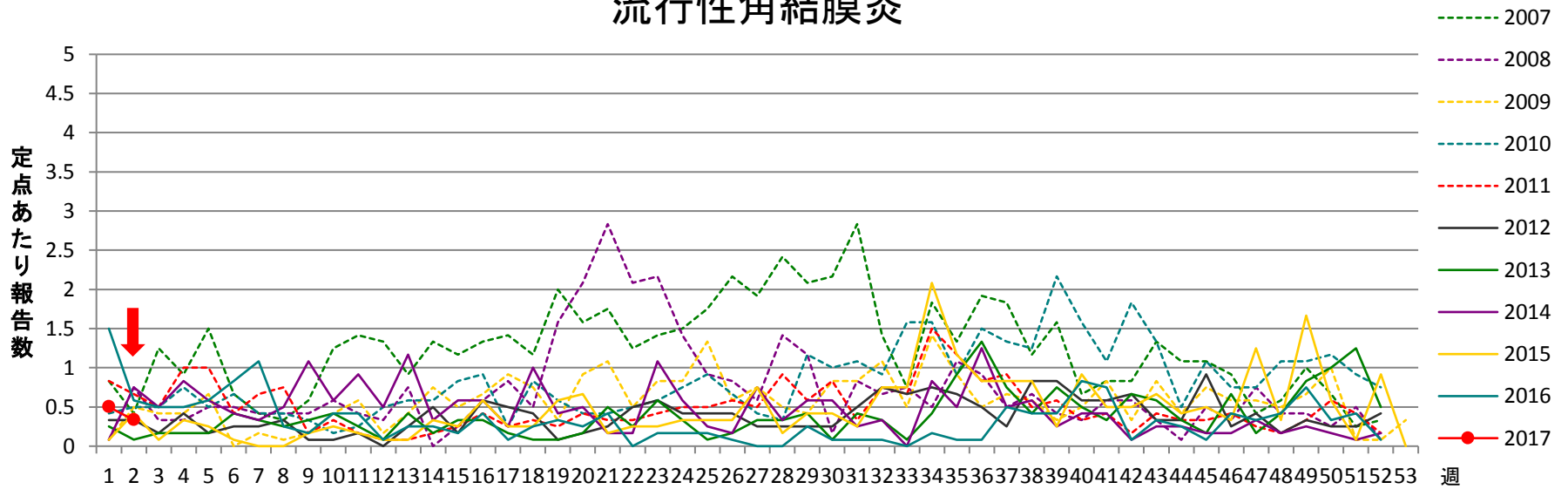
流行性耳下腺炎



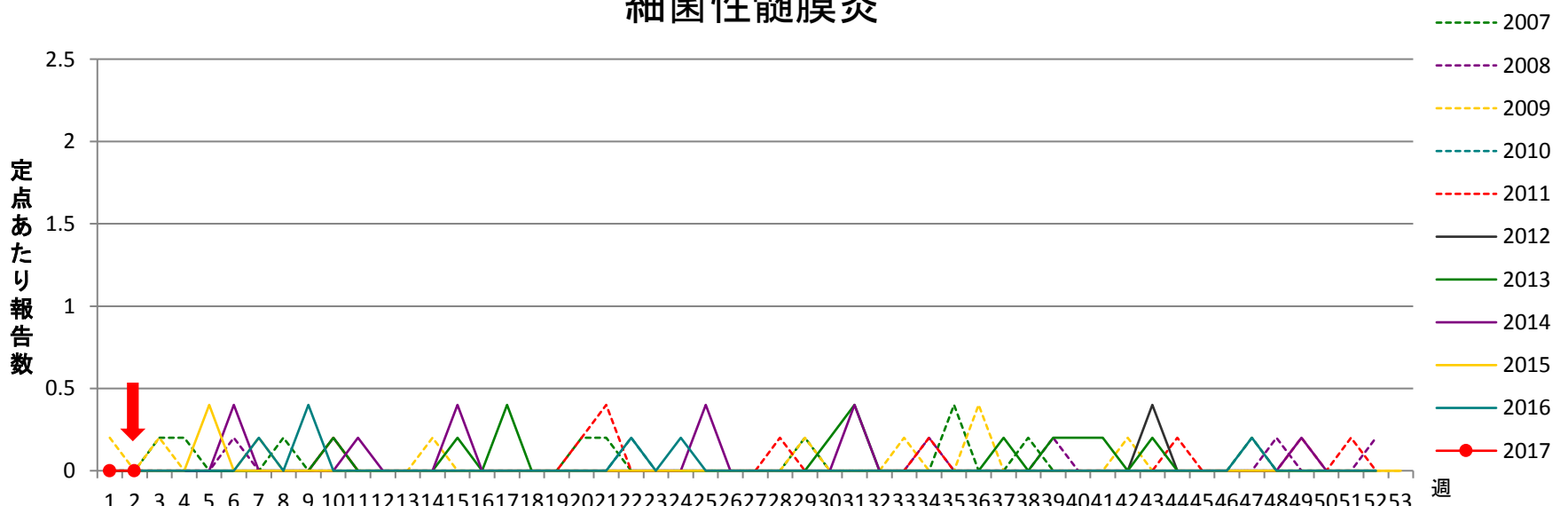
急性出血性結膜炎



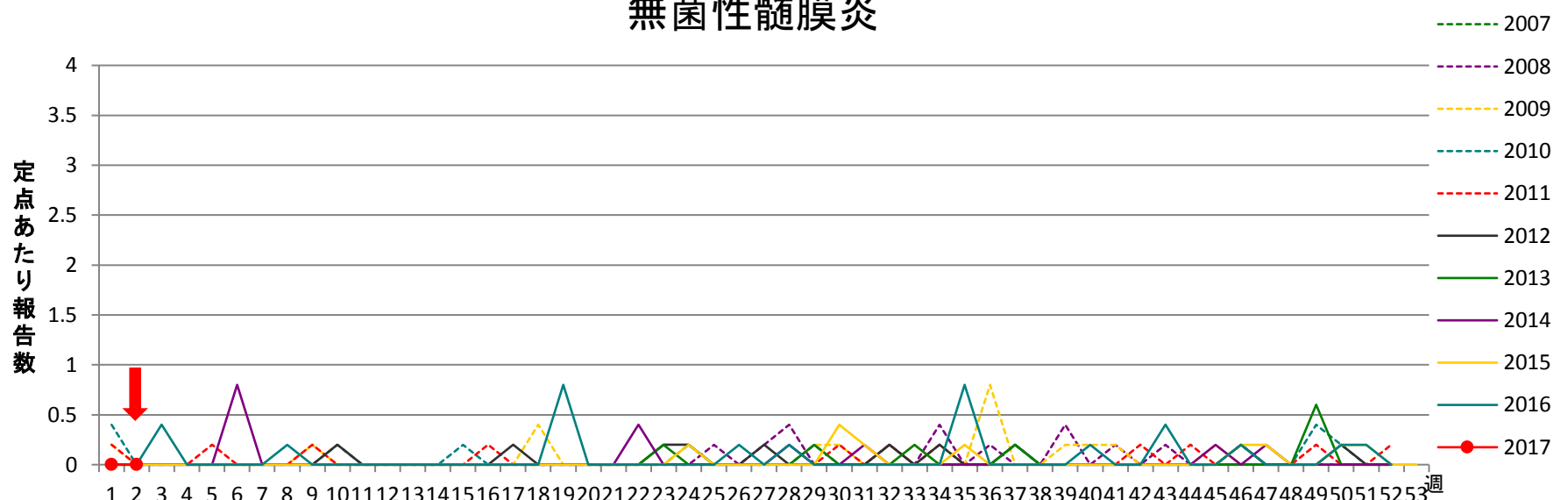
流行性角結膜炎



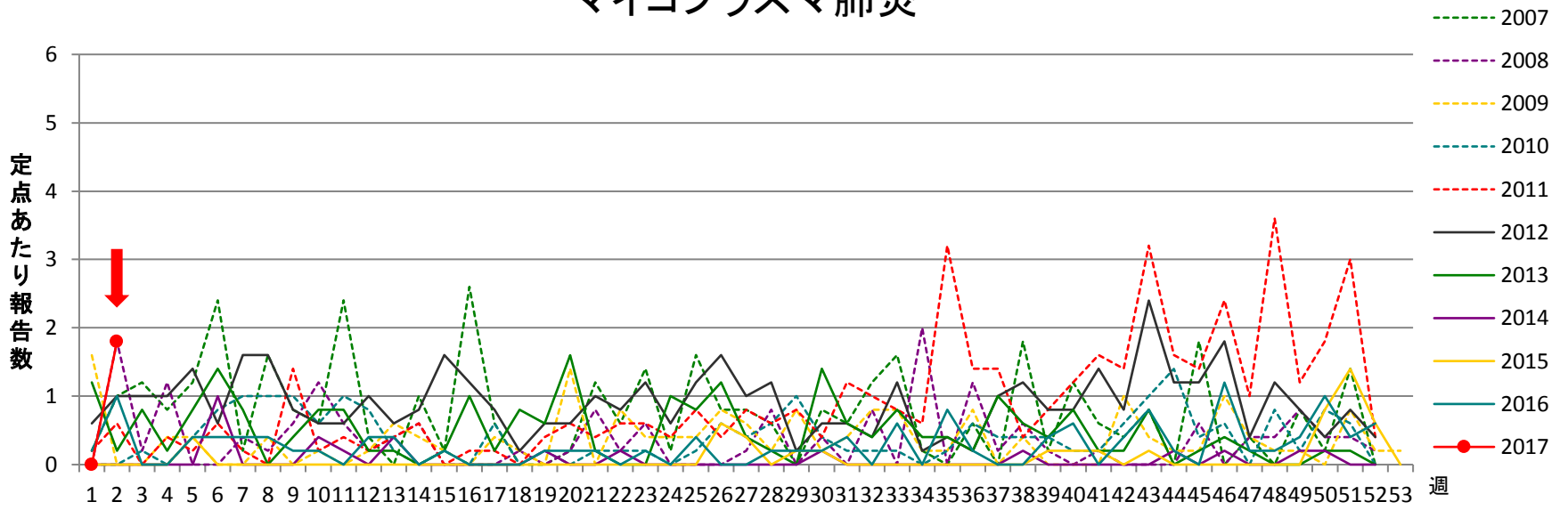
細菌性髄膜炎



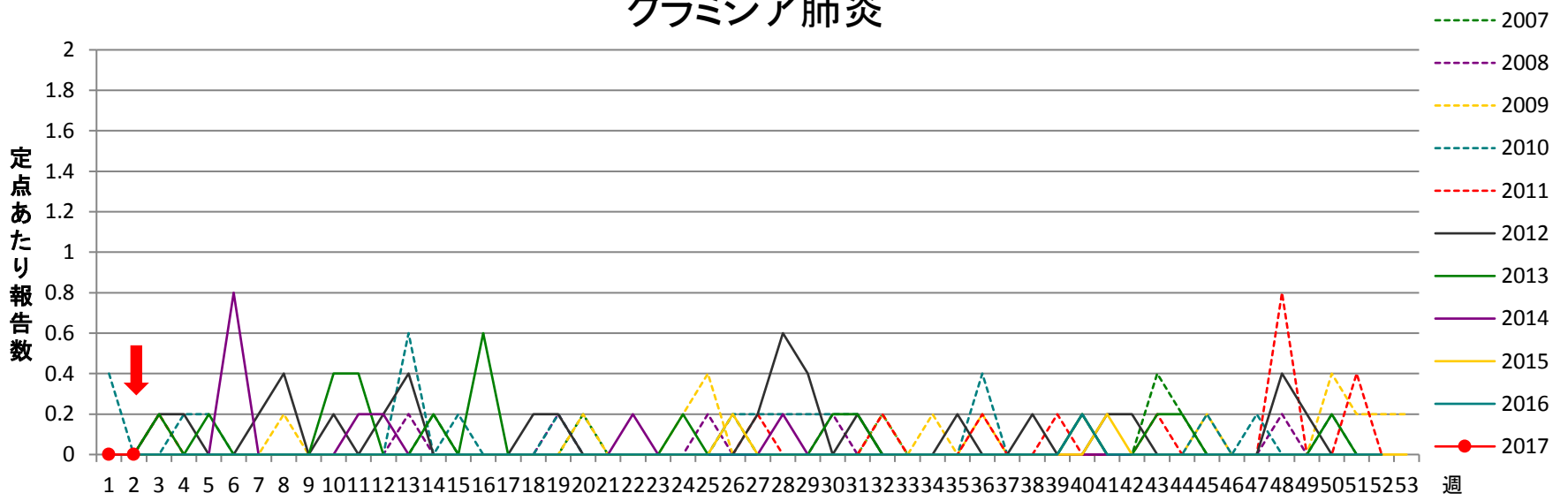
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

